

## 宮城豪雨被害に関して現地調査を行いました（2015/11/16）

テーマ：災害調査  
場 所：宮城県大崎市

宮城県では平成 27 年 9 月関東・東北豪雨に伴う堤防決壊等により家屋浸水や農作物への大きな被害等が生じました。災害科学国際研究所では、洪水被害メカニズムを明らかにする研究チーム（破堤・越水・洪水調査解析チーム）を結成し、現地調査を 11 月 16 日に実施しました。現地調査のメンバーは、五十子幸樹教授，鈴木裕介助教，呉修一助教（以上，災害リスク研究部門），山下啓助教，林晃大助手（以上，寄附研究部門）で構成されました。

現地では、宮城県大崎市を流れる鳴瀬川水系渋井川を対称に、堤防決壊部周辺の土砂の侵食状況，フェンスの倒伏状況等に関する調査を実施しました。このように堤防決壊部の堤内側の状況を明らかにすることで，決壊時の洪水氾濫状況を推定することを目的としています。今後，調査より得られたデータの解析を進め，様々な情報を国内外に発信していく予定です。



渋井川堤防の仮復旧後の様子



渋井川堤防決壊部堤内側の様子



侵食深を計測する様子



倒伏したフェンス支持部を調査する様子

文責：呉修一，鈴木裕介（災害リスク研究部門）  
山下啓（寄附研究部門）